

■事例写真

(1) 公共や民間のみどりとのネットワークの形成

ア 街路や公園、水辺等の公共施設と連携し、空間や緑に厚みを持たせる

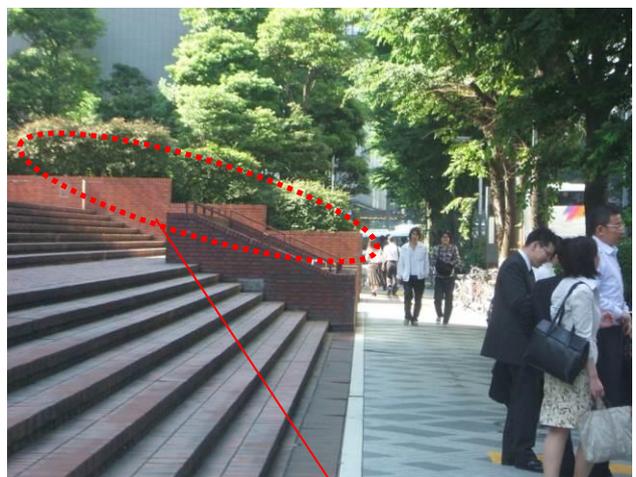
都市公園や道路と連携することにより、市街地におけるみどりのネットワークを形成している。



イ 隣接する公開空地等の民間施設と連携し、空間や緑を連続させる

民間事業者同士が隣接する開発敷地で公開空地を向け合うことで、広がりのある空間が実現する。

隣接する開発敷地で公開空地の間に壁が設けられているため、歩道状空地が連続していない。



公開空地を区切る壁

凡例 青字：望ましい事例 赤字：改善が望まれる事例

### コラム：「公共と民間におけるみどりのネットワークの形成」

これまでの東京都でのみどりのネットワークづくりは、道路、河川、公園等の各種整備事業において取り組んできました。このような中、より多くのみどりの連続性と広がり为确保するため、平成19年6月に「環境軸ガイドライン」において環境軸を設定しました。この環境軸は、民間も一緒になりながら道路、河川、公園等の沿道のまちづくりで創出されるみどりを組み合わせ、公共のみでは成し得ない厚みと広がりを持った緑化空間の創造を目指しています。そのため、今後もより一層、環境軸上の公開空地を創り、つなげることでみどりのネットワーク形成を促進する必要があります。

また、環境軸上にはなくても規模の大きな公開空地等は、地域の貴重な緑化空間の拠点となり、行く行くは、幹から出た枝のようにみどりのネットワークの形成につながるよう期待が高まっています。

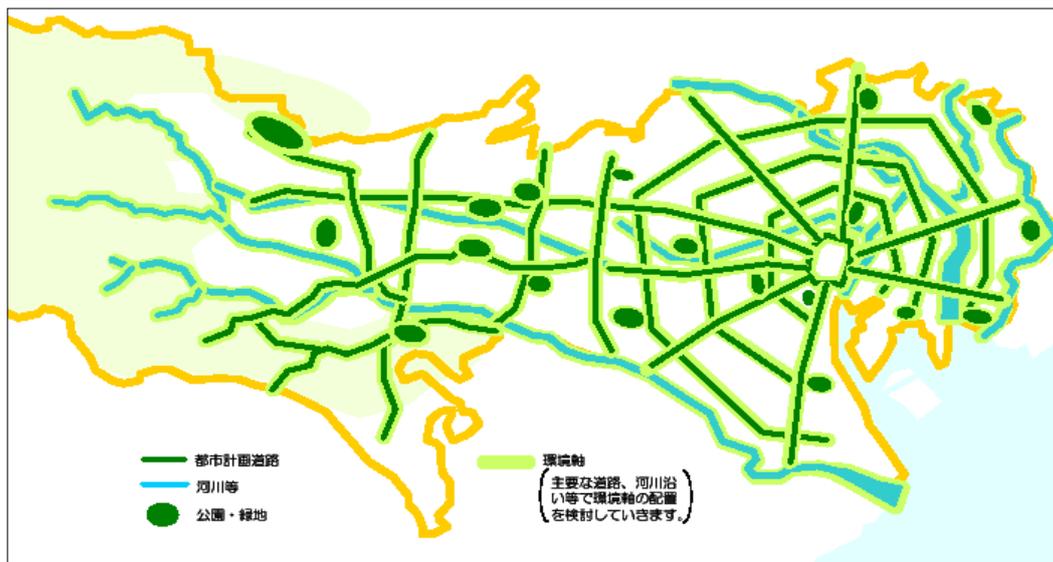


図 東京都の環境軸

(2) ヒューマンスケールにおける快適なみどり空間の創出

ア 歩道状空地の持つ通行機能等の可能性を最大限発揮させる

(ア)道路との一体感

前面道路と一体的な空間にすることで、歩道機能を補完している。



歩道 | 公開空地

前面道路に歩道がないにもかかわらず、通路部分を植栽帯で隔てているため、道路との一体性を欠いている。



通路を隔てている植樹

(イ)有効幅員の確保

歩行者動線を考慮した植栽配置により、有効幅員も確保した歩行空間が生まれている。



線路下歩行空間 | 道路側歩道

歩道状空地の植栽帯が障害となり、歩行者の通行可能な有効幅員が確保されていない。



有効幅員不足 (1m 未満)

公開空地 | 道路

凡例 青字：望ましい事例 赤字：改善が望まれる事例

(ウ)横断勾配

広い幅員、段差がなく平らで滑りにくい路面、ゆとりある枝下空間・植栽などが空間の価値を高めている。



フラットな舗装面

前面道路とのすりつけが適切でないため、一部横断勾配がきつく、歩行しづらくなっている。



一部横断勾配がきつい

(エ)段差の解消

歩道の高さやフラットに整備され、歩きやすいみどり空間を創出している。



フラットな舗装面

歩道とのすりつけに段差が生じ、バリアフリーな空地になっていない。道路管理者との調整が必要である。



段差がある。

凡例 青字：望ましい事例 赤字：改善が望まれる事例

(オ) 枝下高さの確保

整備当初から一定の大きさの樹木を植栽することにより、安全に歩くことができる空間を創出している。



ゆとりある枝下高さを確保

樹木の枝下空間が確保されていないため、歩行しづらくなっている。



枝下が低く歩行に支障がある。

(カ) 滑りにくい舗装

滑り抵抗が高い舗装材料として、れんが舗装を使用している。



滑り抵抗が低い舗装材料を一部に使用しており、雨天時等では歩行上危険な面がある。



凡例 青字：望ましい事例 赤字：改善が望まれる事例

(キ) 歩行動線の確保

歩道と植栽地が一体的となり、スムーズな歩行動線が確保されている。



歩行動線が適切に確保されていないため、植栽地を横切る踏圧により植栽が育たず消失してしまっている。



植栽が消失している。

横断歩道から敷地内への動線上に高木が植栽されており、歩行の支障になっている。



凡例 青字：望ましい事例 赤字：改善が望まれる事例

イ 広場状空地の持つ溜まり機能の可能性を最大限発揮させる

(ア) 歩行者動線との整合

人が溜まる空間と歩行空間が明確に分けられ、効率的な利用が図られている。

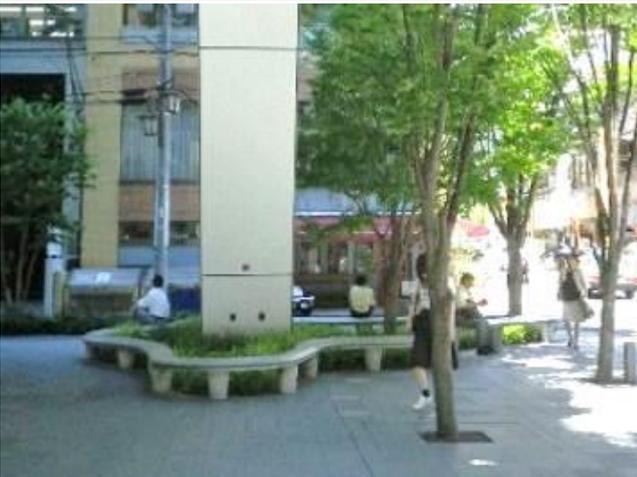


利用状況によっては、人が溜まる空間と歩行空間が混在する場合もある。



(イ) 休養機能

広場状空地にベンチなどが設けられ、利用者が休憩できる空間を提供している。



まとまった広場状空地が設けられているが、ベンチ等を設けることで、更に利用しやすい空間になり得る。



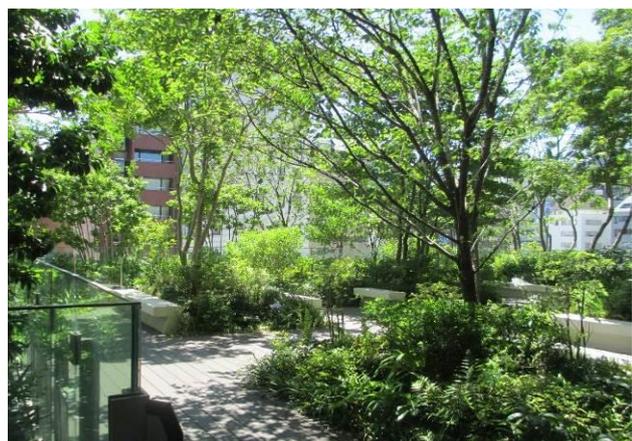
凡例 青字：望ましい事例 赤字：改善が望まれる事例

(ウ) 緑陰

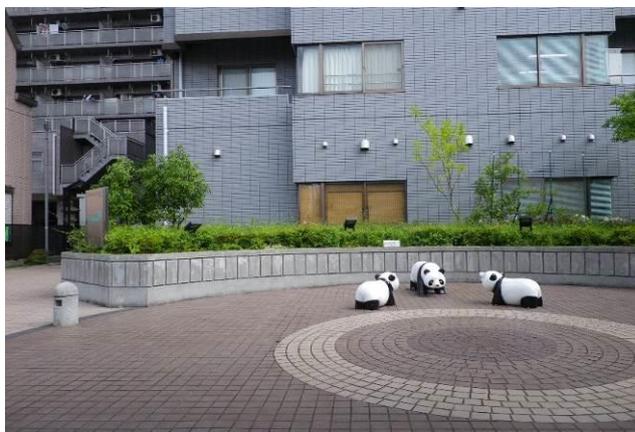
適切な樹木配置により、緑陰効果が期待できる空間となっている。



休憩スペースに高木を植栽することにより、効果的に緑陰を形成している。



植栽は敷地の辺縁に施されているが、低木ではなく高木により緑陰を充実させることで、更にみどり豊かな空間になり得る。



規模の大きい広場状空地であればこそ、緑陰樹を充実させることで、更に緑豊かな空間になり得る。



(エ) 芝生広場や水景施設の配置

舗装の代わりに芝生広場や水景施設を配することにより、安らぎと潤いのある滞留空間を創出するとともに、ヒートアイランド現象の緩和や雨水浸透効果が期待できる。



凡例 青字：望ましい事例 赤字：改善が望まれる事例

### コラム：「ヒューマンスケールにおける快適なみどり空間の創出」

公開空地は、歩道等の公共空間と建物空間の間領域に位置しており、機能的にも空間的にも双方の空間における活動を結び付けるものです。そのため、公開空地は、歩道や隣接した公園等との一体的な利用ができるようにし、にぎわいの連続性を阻害しない配置やデザインにすることが必要です。

また、樹木、花、水、ベンチ、芸術系モニュメント等を配置することで、憩いの場として積極的に演出し、魅力ある空間とすることが求められています。その際、横断勾配を緩やかにしたり、段差解消や滑りにくい舗装にするなど、車椅子やベビーカーを利用する人にも利用しやすい、ヒューマンスケールを取り入れた快適な緑地空間が重要な要素となってきます。

※ヒューマンスケールとは、人体や運動能力を基準にして空間のサイズを考えることです。



撮影：東京ミッドタウン

### (3) 見通し等が確保された安全な空間の創出

#### ア 明るさや見通しを確保する

樹木の枝下空間を十分に確保するとともに、植込みの高さを抑えて、道路から広く見通せるようになっている。



見通しが確保されていない植栽配置となっている。高木の配植などにより見通しを確保することが可能となる。



#### イ 死角を排除する

##### (ア) 交通安全上の死角の排除

車の出庫時の見通しに配慮して、植込みの高さを抑えている。



植込みの高さが高いため、車の出庫時の見通しが悪くなっている。



凡例 青字：望ましい事例 赤字：改善が望まれる事例

(イ)防犯上の死角の排除

密な植栽のため一部に死角が生じている。視線の抜けに配慮した植栽の配置が必要である。



ウ 工作物の角等は利用者に危険な形状を避ける

擁壁等の立ち上げが必要な場合、傾斜を付けた石積などは角の危険を避けるとともに、空間に柔らかさを与える。



鋭角を強調した壁は、利用者にとって危険である。



凡例 青字：望ましい事例 赤字：改善が望まれる事例

### コラム：「見通し等が確保された安全な空間の創出」

公開空地は、多くの人に安心して利用してもらうため、死角の少ない安全な空間であることが必要となります。そのため、枝下空間が確保された高木を配置するなど、見通しの良い空間の創出が求められています。当初の計画段階から、そのような空間となるよう配慮することが重要となります。

また、樹木は病虫害や自然災害等により、倒木や枝枯れ、枝の落下などが発生することが考えられます。日々の点検はもちろんのこと、樹木医等の専門家による診断によって、危険を未然に防止するなど、公開空地における安全性を確保することは、重要な役割の一つです。

将来にわたって、安全を確保し、人々に安らぎや癒しを与えられるよう、公開空地の特性に応じた高い管理技術と管理計画に基づいた適切な維持管理を実施することが必要となっています。



撮影：豊洲キュービックガーデン